

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年5月28日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4674900164
法人名	医療法人 幸望会
事業所名	スマイル園
所在地	鹿児島県出水郡長島町鷹巣3681番地5 (電話) 0996-86-1152
自己評価作成日	平成30年5月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年5月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

*母体法人の運営する医療機関と渡り廊下でつながっており、緊急時の連携体制がとれています。
 *自家菜園で季節の野菜を作り、採れたての物を食材として利用しています。また、海の幸が豊富で、新鮮な魚料理を提供しています。
 *家族会、面会、園だよりなどでご家族と事業所との関係づくりを大切にしています。職員も地元の人がほとんどで、利用者本人やご家族とも面識がある方が多く良い関係が保っています。
 *保育園、幼稚園、小学校の子供たちの慰問が多く利用者も楽しみにしています。園で収穫した、玉ねぎとジャガイモをお礼として提供しています。また、中学校より、福祉体験を受け入れ、生徒に高齢者や認知症に対する理解を深める場として活用しています。
 *自分たちで課題を見つけ、担当者が調べて他の職員に教える形の勉強会を2ヶ月に1回行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・当事業所は町役場や体育館・小学校・中学校など公共施設の近くにあり、母体医療機関に隣接した施設である。
 ・母体医療機関とは渡り廊下でつながり日常的な交流と緊急時の協力体制、医療面でのバックアップ体制が整っている。
 ・町内会に加入し、地域行事へ積極的に参加している。ボランティアの受け入れや保育園児・幼稚園児・小中学生の慰問など交流が盛んであり、菜園で収穫した玉ねぎやジャガイモなどを近隣へおすそ分けするなど良好な関係が築けている。
 ・代表者や管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしている。必要時には随時個人面談を行うなど働きやすい環境づくりに努め、勤務年数も永く離職者も少ない。資格取得に向けた支援も充実しており、有資格者が多い。
 ・母体医療機関が隣接している事もありターミナルケアまでの希望が多い。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている</p>	<p>全員参加の話し合いで理念を作り、定期的に話し合いの場でそれに関し、気づきがあればスタッフ、管理者問わず意見・注意等を出し合うようにしている。</p>	<p>全職員で見直した理念があり、玄関や事務所に掲示している。パンフレットにも掲載している。毎日のミーティングで確認し、毎月の職員会議で振り返りを行い、理念に沿ったケアの実践を行っている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している</p>	<p>保育園から中学校まで子供達が来園したり、畑仕事の際、利用者を連れて地域の人との交流に努めている。</p>	<p>自治会に加入し有線放送で情報の共有を図っている。小学生のふれあい学習や学習参観への参加、保育園児との交流、職場体験学習、ボランティアの受け入れ等を行い、地域行事へも積極的に参加している。地域住民からの野菜の差し入れや畑で採れた野菜をいただく等、日常的に地域と交流が図られている。</p>	
3		<p>○事業所の力を生かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。</p>	<p>運営推進会議や介護相談員の訪問時、園だより、家族会、中学校の福祉体験を受け入れ、認知症の事を詳しく説明し理解に努めている。また、小学校への講話も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回の会議で、利用者、施設の状況を報告し、意見を貰ったり、地域や家族からの意見、質問を頂き、その場で解決できるよう努力している。</p>	<p>会議では事業所の現状報告や活動報告を行い、地域の情報や行政からの情報提供があり、出された意見やアドバイス・情報は会議録で職員へ周知し、サービス向上に反映させている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>管理者、全スタッフが交代で推進会議や地域ケア会議などでも連携をとり、施設の状況や取り組みを伝えたりし、必要な場合協力を得たりしている。また家族会での報告も行っている。</p>	<p>役場が近いこともあり、書類関係や相談など頻繁に出向いている。介護相談員の受け入れや研修会への参加、運営推進会議や地域ケア会議などで連携を図り協力関係を築いている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束について職員は勉強会を実施し理解しているが、身体の危険が伴う方に対しては、主治医と相談し家族への説明、承諾書のもと時間を決めて実施している。</p>	<p>指針・マニュアルがある。外部研修への参加や内部研修を実施し、職員の理解と意識の統一を図っている。言葉による拘束も含め身体拘束ゼロに向けた取り組みを行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>老人虐待法の定義と実態について勉強会を開き職員の認識を高め防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見制度が必要なケースが今までないが、勉強会を行ない職員は理解を深めるようにしている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約に関する説明は、重要事項説明書に基づいて管理者が立会い、信頼を得ながら理解、納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>面会時や家族会にて意見を頂き、利用者からも随時要望を聞いている。また、意見箱の設置や苦情の受付窓口を設けている。意見が出た際には、速やかに職員会議で議題にして解決に努めている。</p>	<p>利用者からは日常会話や日々の支援を通して意見や要望を聞き取りを把握している。家族からは面会時や年2回の家族会において話を伺っている。把握した意見や要望は職員会議等で話し合いケアに反映させている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>最終決定は法人代表が主となるが、定期的なミーティングでスタッフの意見を把握して、検討、決定したり運営推進会議にはスタッフの参加を行なっている。</p>	<p>職員会議や申し送りノートで意見や提案など把握している。出された意見や提案は検討しケアや運営に反映している。管理者は日ごろから職員とのコミュニケーションを図り必要時には随時、個人面談を行ってより良い環境作りに努めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の資格取得や研修等に対し、積極的に支援し向上心をもてるよう努めている。また、残業手当もあり、職員の緊急の体調不良や忌引きにも職員同士が助け合い、休暇が取れる体勢も出来ている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2ヶ月に1度の勉強会ではスキルアップの為にテスト形式やクイズ形式したり工夫している。また外部研修にも積極的に参加し研修で学んだ内容を勉強会の議題にして体験などもしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域ケア部会や外部研修に全スタッフが交代で出席し、同業者との意見交換や症例発表を行ない、交流をもつことによりサービスの質の向上を目指している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の際、本人の希望や要望はもちろん、本人からの希望が聞けない場合にも家族から情報を聞き長年積み重ねてきた生活歴を尊重し、表情などでくみ取り安心して生活出来るように声かけに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の面談で認知症の理解がなく介護してきた方が多い為、認知症について説明し介護の現場を実際見て頂き、家族の要望を踏まえたくえで対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要とされている支援に応えられない状況や条件であっても相談をよく聞き、適切なサービスの紹介等心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に役割を持ってもらう事で、介護してもらう立場だけでなく協力しながら生活している、まだ自分も役に立っているという達成感もてるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には利用者の近況報告だけではなく、家族の近況なども雑談に交えて家族と職員の信頼関係を築いている。また外で会った場合にも気軽に声をかけて話しをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同集落の知人友人が面会に来られたり、地域の行事等を話題に盛り込んだり、ドライブでは自宅付近に出かけたりしている。	アセスメントや家族からの情報で面会の声かけを行い、面会に来やすい環境づくりに努めている。行き付けの美容室利用や年賀状などの手紙の支援、電話の取次ぎ、地域行事への参加など、馴染みの人や場との関係を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	役割分担で、互いに助けられたり、助けたりの関係作りに努め、トラブル調整もすぐに介入せず入居者同士の係わり合いをみながら行なっている。また、毎日、日誌に書きとめ情報共有に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も地域の方なので家族を含め会う機会も多いので、その後の経過把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	生活の中で何を楽しみにされ求められておられるか、話をしたり表情から読み取ったりして把握に努めている。困難な場合、スタッフ皆で本人の思いを確認することを心掛けている。	アセスメントや家族からの情報、日々の会話や表情などから思いや意向の把握に努めている。困難な場合は本人本位に支援を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時や必要時の情報収集にてその方の生活暦の把握に努めている。また、記録や7表にて入居中の経過なども把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員でカルテや第7表を見て、一人ひとりの生活リズムを把握し、利用者にとってどのような生活がよいかアセスメントを行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りやミーティング、家族会、運営推進会議などで意見交換を行ない、面会に合わせて担当者会議を行い、介護計画の作成に活用している。	毎月のケア会議でモニタリングを行い、介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。家族の面会時に合わせ担当者会議を開催し、主治医の意見や職員の意見を踏まえ介護計画を作成している。状況変化時には随時、見直しが行われ現状に即した介護計画となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを用意し、経時的な記録とその方の様子が視える記録をとっている。職員間の情報の共有を徹底し、担当者会議を基に介護計画の見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>母体法人が運営する医療機関と隣接しており、医療的ニーズが発生した場合には本人や家族に柔軟な対応が取れるよう連携している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>警察、消防からの協力を得ている。小中学校、保育園、幼稚園へは訪問の依頼の働きかけを行ない、年数回実施している。運営推進会議にて役場や公民館と連携をとっている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>母体法人が運営する医療機関と隣接しており、主治医の定期的な訪問を受けており、状態の変化があった場合は早急な対応をとっている。また、必要に応じて他医療機関への受診も行っている。</p>	<p>母体医療機関が主治医となり、週2回の往診と必要時には随時往診を受けている。他科受診については家族の協力を得ながら必要時には職員が付き添っている。複数の看護師が中心となり支援を行っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師を非常勤で配置し、また、定期的な居宅療養管理指導を受け健康管理や状態変化に応じた支援を行なっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者が入院した際は情報の提供を行ない、病院関係者と情報交換をし、速やかな退院支援に努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>ターミナルケアのマニュアルを作成し重度化、終末期への対応に備えている。必要に応じて本人や家族の意向を確認し、安心して最期を迎えられるように医師、看護師、職員が連携を取っている。</p>	<p>指針やマニュアルがあり、入居時に文書で家族に説明し同意を得ている。母体医療機関が隣接しており、状況に応じて随時話し合いが持たれ、本人・家族の意向に沿った対応を行っている。看取りまでの希望も多く、年間数例の事例がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急手当のマニュアルや事故発生時のマニュアルを作成し、勉強会を行なっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>防災マニュアルを作成し、防火管理者を中心に避難訓練や消火器の使い方の訓練などを年2回行っている。また家族会と合わせて行い家族の参加もある。スプリンクラーと自動通報装置の設置も済みであり、毎月1回通報訓練を行っている。また、火災時の地域協力隊の存在もある。</p>	<p>防災マニュアルを基本に、毎月の自主訓練と年2回、消防署立ち合いでの昼夜を想定した消防避難訓練を実施している。通報装置・スプリンクラー・緊急連絡網が完備され備蓄もある。災害時の地域協力隊や隣接する母体医療機関の協力体制も整っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地元の言葉での会話で親しめる環境作りをしているが、年長者としての敬意を忘れないよう心掛けている。トイレやオムツ時の声かけ等は羞恥心に配慮した言葉掛けに留意している。	マニュアルがあり定期的に勉強会を開催し、確認と意識の統一を図っている。個人情報保護マニュアルがあり入居時に同意を得ている。排泄や入浴時には特に声かけや対応には配慮している。書類関係の管理にも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できる方が少なく職員の誘導で1日を過ごしている事が多いが、一人ひとりの状態に合わせて本人が答えやすく、選びやすいような働きかけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れ、週間の流れは持っているが、1人ひとりの体調に合わせて出来る限り個別性に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	自己での身だしなみが困難な方には、STで声かけしながら介助している。散髪は家族と本人の希望によりスタッフや理.美容師さんが行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は一緒に食事の準備や片付けを行なえる方は2名おられ、負担にならない様声かけし分担しておこなっている。旬な材料を活かして食事を楽しめる工夫も行なっている。	能力に応じて野菜の下ごしらえやツワの皮むき・台拭きなど職員と一緒にしている。畑で採れた旬の野菜を食材に利用者の希望に沿った献立や食事形態にも配慮されている。行事食や家族との食事会や茶話会など食事が楽しみなものになるよう工夫されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の定期採血での栄養状態を元に食事形態を工夫したり、経管栄養や食事量の低下した方は経腸栄養剤を使用し、水分と栄養のバランスを調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で歯磨きが出来ない方がほとんどで、職員が利用者に合わせて毎食後や夕食後に口腔ケアを行ない義歯洗浄剤を使用している。。義歯のない方は、うがいとガーゼ、スポジカ、洗口液での口腔内清拭を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄が自立している方は見守りや一部介助を行いトイレでの排泄がスムーズに出来る様支援しているリハビリパンツ等朝・夕チェックし失禁の有無を確認し清潔に努めている。	排泄パターンを把握し声かけやトイレ誘導を行っている。パットを活用し自立に向けた支援を行っている。パットの種類の検討を行い、利用者の負担軽減に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分は1日1000ccを目標にチェックシートに記載し排便チェック表にて排便の確認を行い、便秘の方は個々に応じた下剤を使用し服用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は週2回と固定されており希望のタイミングでは入れないが、湯の温度や順番には個々に対応している。	入浴は週2回、体調をチェックして順番など希望に応じ柔軟に対応を行っている。拒否のある利用者については声かけの工夫やタイミングを見て対応している。状態に応じて二人介助やストレッチャーの利用など入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている方は自分の休みたい時に休まれ、介助が必要な方は長時間座位は苦痛で臀部への負担も大きい為食後15～30分程で臥床を促している。また、オムツ交換時に毎回陰部洗浄して不快感を軽減して安眠出来るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅療養管理指導を行い、利用者が服用している薬を一覧表にまとめ、服用した際にはカルテに記載している。また、誤薬がない様確認は3回行い、服薬確認も行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お盆拭きや洗濯物たたみ、食材切り、旬の食材がある時は個々の能力や体調に合わせ利用者の今までの経験を取り入れている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	希望にそって外出は出来ないが、天気の良い日は園周辺へ車イスで散歩に出かけたり、自宅周辺へのドライブに出かけている。	天気の良い日には畑へ行ったり周辺への散歩、ドライブ等へ出かけている。家族と一緒に外出や墓参り・花見・地域行事への参加など、日常的に外出の支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在家族の協力を得て、本人の希望によりお金を所持している方が1名おられる。他の方は金銭能力がなく、また希望もされていない為預かりは行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	現在電話や手紙で家族の方とやり取りが出来る方はおられず、ちょっとした必要品は職員が家族に電話をかけ、その際に近況報告を行っている。年に3回の園だよりで生活の様子をお伝えし、行事等で撮った写真を同封している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>常に清潔が保てるよう配慮し、シンプルに整えている。車椅子の方が多いため、駆動時に、衝突しないよう食台のスペースも広く取っている。また、季節の花が咲く時期には玄関や食台に飾って満喫して頂いている。</p>	<p>共用空間は広くゆったりとしたスペースとなっている。室温・湿度の調整や換気・採光に配慮し清潔感がある。季節感のある飾りつけや行事の写真、季節の花が活けてあり、ゆっくりくつろげる大きなソファが置かれている。車いす使用の利用者が多く、居心地よく過ごせる環境となっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>食堂やホールにソファを置き、楽器を演奏したり、時には一人で日向ぼっこをしながらくつろげるスペース作りを行っている。入所者同士の雑談は、介護度が重く、言語障がいや難聴の方が多くあまりとれず、出来るかたは食事前後にしています。</p>	/	/
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人が必要な物、馴染みの物などは家族に頼み、持ってきてもらっている。家族が面会に来られた際にもゆっくりしていただける様に、人数分の椅子を用意している。</p>	<p>居室にはエアコン・ベット・整理ダンスが備え付けられ必要に応じてエアーマットや椅子などを準備している。それぞれが寝具やハンガー・テレビなどを持ち込み家族の写真や鉢植え・手芸作品が置かれている。掃き出し窓で明るく家族が泊まれるように広く、居心地よく過ごせる環境となっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベットには手すりを取り付け寝返りや起き上がりがしやすいようにし、トイレの手すりも最小限の介助で済むよう出来るだけ利用者の力が発揮できるように支援している。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない